

子宮細胞診の所見



膣から器具を挿入し、子宮頸部の細胞を採取して、顕微鏡で調べる検査です。

分類	NILM 陰性	ASC-US 軽度病変疑い	LSIL 軽度病変	ASC-H 高度病変疑い	HSIL 高度病変	SCC がん	Adeno carcinoma がん
推定される病理診断	異常なし	異形成とは言い切れないものの細胞に変化が見られる状態です	軽度異形成が疑われます	中等度異形成または、高度異形成・上皮内がんの可能性のある状態です	中等度異形成または、高度異形成・上皮内がんが疑われます	扁平上皮がんが疑われます	腺がんが疑われます

子宮内診・経膣超音波検査の所見

膣内にプローブ（検査器具）を挿入して、子宮や卵巣の状態を調べる検査です。

しきゅうきんしゅ 子宮筋腫	子宮にできる良性の腫瘍（しこり）です。徐々に大きくなり下腹部痛や貧血などの原因になることも少なくありません。薬物療法や手術が必要になることもあります。
しきゅうけいかん 子宮頸管ポリープ	子宮の入り口にできるポリープです。大きさは通常数mmから1cm程度で多くの場合は1つですが複数生じることもあります。痛みを伴わず症状がないことも多いため、子宮頸がん検診で発見されることが多い疾患です。
らんそう ほう 卵巣のう胞	卵巣の中にできる液体が溜まった袋のことです。無症状で経過することが多く、検診を受けた際に偶然指摘されることもあります。しかし、大きくなると、下腹部の痛み、腹部の膨満感、頻尿などを自覚することがあります。
チョコレート ^{ほう} のう胞	子宮内膜症の一種です。卵巣に月経血が貯留して卵巣が腫れた状態です。20～30歳代に多くみられます。重い生理痛や、骨盤痛を引き起こすことがあります。不妊につながる場合があります。

***不正性器出血がある場合には医療機関での子宮体がん検査もお勧めします。**

*内診では、子宮や卵巣の腫れの有無・子宮の可動性・子宮や卵巣周囲の圧痛の有無を確認していますが、内診だけでは正確に分からないこともあります。子宮・卵巣の状態が気になる方は、次回の健診時に、経膣超音波検査をお勧めします。

子宮頸がん検診で、がんになる前に発見することが大切です。